

市長候補さんに一問一答（オーガニック給食無償化を実現する会から公開質問状）敬称略

Q1. 現在実施されている小中学校の給食無償化を継続していくためにどんな工夫をしようとお考えですか。

大坂佳巨

現在の状況では、保護者の年間負担軽減額は小学校で 63000 円、中学校で 72625 円となっているそうですが、物価高の中、予算効率化のためといって質を落とすことはできません。これを継続するためには「減価する通貨」「腐るお金」を使用して市内の流通速度を高め、地元の農産物や特産品を給食に取り入れることで、地元経済の活性化にもつなげます。

勅使河原正之

次年度以降も継続する工夫につきましては、郡山市全体の歳入・歳出の中で選択と集中の考えのもと、さらに活用できる国の助成制度の精査を行うなど、財源の確保に努めたいと考えております。

椎根健雄

給食無償化を継続するためには、財源確保と効率的な運営が不可欠です。事業の見直しを進めながら無駄な歳出を削減し、給食無償化の財源を確保していく。

市長候補さんに一問一答（オーガニック給食無償化を実現する会から公開質問状）敬称略

Q2 オーガニック給食を導入した場合、具体的にどういうメリットが生まれると思いますか。あなたのお考えをお聞かせください。

大坂佳巨

発達段階にある児童・生徒には、人工的な化学物質の影響を与えることについては好ましくないと考えます。私はこれまで有機農業や化学肥料を使わない無農薬野菜を育てたり、人力での稲作も経験があるので、その味のおいしさや土と共生できる教育について大いにメリットがあると思っています。また、化学肥料を使わないことにより、汚染を防ぎ、環境負荷を減らすことができます。これに加えて腐るお金が流通すれば市内に循環せざるを得なくなり、持続可能な農業が可能です。ひいては郡山市内が全体的に有機農業・無農薬の文化が育まれます。

勅使河原正之

JAS法で「オーガニック」と表示できる有機農産物、有機畜産物、有機加工食品を給食で導入した場合、環境の保全や地域経済の活性化などにつながるものと考えております。

椎根健雄

オーガニック給食には、子どもの健康維持や地元農業の活性化、環境保全といったメリットが期待されます。一方で、コストや安定供給の課題もあるため、ご意見をしっかり伺いながら、実現可能な方法を探ることが大切だと考えます。

市長候補さんに一問一答（オーガニック給食無償化を実現する会から公開質問状）敬称略

Q3 全国のオーガニック給食を導入した幼稚園、保育園から、欠席率の低下や集中力の向上などが報告されています。

郡山市が導入のモデル地区になれば、子どもの食の質や子どもの心身の健康が向上することで、他地域から郡山市に子育て世帯の人口流入の可能性はあるかどうか、あなたのお考えをお聞かせください。

大坂佳巨

子どもが健康になるばかりでなく、オーガニック給食の郡山モデルができれば、学校給食だけでなく、各家庭における日常の食事、市内の飲食店にも波及するでしょう。そうなれば人口流入の可能性もあると思いますが、この郡山モデルが郡山周辺自治体にも広がれば、都市部である郡山市よりも周辺自治体のほうが農業生産性は高いので、負けてしまうかもしれません。よって先を見越して、オーガニックの外出産業を郡山市内に発展させることも必要だろうと考えます。

勅使河原正之

学校給食における有機農産物等の活用に取り組む市町村は、令和4年度末時点で193市町村となっております。

オーガニック給食の導入により、他地域の子育て世帯が郡山市に転入する可能性につきましては、買い物や医療機関、保育所・幼稚園など暮らしやすさが総合的な判断になるものと考えております。

椎根健雄

オーガニック給食の導入が子育て世帯にとって魅力的な要素の一つとなる可能性はありますが、人口流入を促すためには、教育環境や子育て支援策の総合的な充実が必要です。市民の皆様とともに、より良い環境づくりを進めていきたいと考えています。

市長候補さんに一問一答（オーガニック給食無償化を実現する会から公開質問状）敬称略

Q4 オーガニック給食を導入すれば、有機農業が盛んになり、有機農家の収入が安定することが、韓国で実証されています。郡山市において有機農家を支援するためにどのような政策が必要になるか、あなたのお考えをお聞かせください。

大坂佳巨

日本で有機農家の収入が安定しない理由は、慣行農業と比較して収穫量が低くなることでしょうか。病虫害対策を自然の方法で行うため、一般的には高価で手に入りにくいいため、消費者の選択肢としては限定的になります。

このため、大手の流通業者に頼らず、消費者に直接販売する方法が必要です。それは首都圏を相手にせず、郡山市内の地産地消に集中するべきです。

[郡山市の地域別課題①田村町を活性化する](#)

<https://ameblo.jp/heiwatou/entry-12890182659.html>

の田村町で行うべき政策で述べましたが、

農業と工業と商業を「減価する通貨」でリンクさせる方式を行えば、有機農業で生計を立てようという農家の経済は成り立つでしょう。

勅使河原正之

有機農業の推進につきましては、今後、農業従事者と協議を行ってまいりたいと考えております。

椎根健雄

有機転換に必要な初期投資支援（補助金・低利融資）や、学校給食との連携強化（市が一定量の有機農産物を買取る仕組み）、直売所やECサイトを活用した販路拡大支援などが考えられます。市民や農家の皆様の声を聞きながら、持続可能な支援策を検討していきたいと思っております。

市長候補さんに一問一答（オーガニック給食無償化を実現する会から公開質問状）敬称略

Q5 環境保全の観点から、有機農業が盛んになれば、農薬、化学肥料、除草剤の使用がなくなり、生物多様性が保持されます。

そのためには、オーガニック給食が効果的と考えますが、どう思いますか。あなたのお考えをお聞かせください。

大坂佳巨

今後の物価高、円安を考えれば、農薬・化学肥料などが無駄だったことが明るみに出るでしょう。有機肥料として有効活用ができる枯れ葉ですが、なぜ公園で集めて燃やしてしまうのかということがあります。飲食店から出される食品廃棄物も、あるいは食品工場で廃棄される物など、有機廃棄物を有効活用する条例がまず必要です。

耕作放棄地になっている広い農地を活用することにより、虫に食われて当然というふうにしなければ生物多様性は確保できません。また葉物などはその間に唐辛子を植えれば虫はつきません。このようにして、生物多様性を生かしながら給食として提供されているという教育にもつながります。

勅使河原正之

今後の研究課題にしていきたいと思います。

椎根健雄

オーガニック給食の拡充は、環境保全につながる可能性があります。ただし、郡山市の実情に応じた段階的な取り組みが求められます。市民の皆様のご理解を深めながら、環境に優しい取り組みを進めていきたいと考えています。

市長候補さんに一問一答（オーガニック給食無償化を実現する会から公開質問状）敬称略

Q6 品川区では、今年 10 月から全野菜を有機農産物や特別栽培農産物に切り替えることが決まりました。人口約 40 万人の品川区にできたことは、人口約 30 万人の郡山市でもできると数字の上では思いますが、具体的にどのように取り組めば実現できると思いますか。あなたのお考えをお聞かせください。

大坂佳巨

私は衆議院議員秘書時代、担当していた選挙区が品川区でした。品川区でできないことは、地産地消です。コメが一粒も採れませんが、品川区でなんとか農地になりそうなところをみつけて無理やり稲作をしたことがあります。しかし奇異な目で見られました。一方、郡山市においては農地がたくさんあるので品川区とは比べ物にならないくらい自給自足のポテンシャルを持っています。ただし郡山市での問題は、農家の成り手がいないことです。市では地区計画と称して、将来的にこの農地は誰が耕すのかと決めようとしているようですが、それよりも豊田市で行われていた市民が参加できる「おむすび通貨」の仕組みを模倣するのがよいと思います。市民が田植え、管理、稲刈りなどに参加して、そこでおむすび通貨を得ます。おむすび通貨によって食料と交換でき、また地元商店との取引も可能とできるようにしたいと考えます。ブログの以下をご参照ください。

[【ケア編】腐るお金で農業を再生する](#)

勅使河原正之

オーガニック給食の導入には、有機農産物、有機畜産物、有機加工食品の安定的な確保、有機野菜等への切替による食材費の増額分の予算の確保などが必要であり、導入している自治体の状況を調査してまいりたいと考えております。

椎根健雄

他自治体の事例を参考にしつつ、郡山市にとって最適な方法を模索することが大切です。まずは安定供給が可能かも踏まえ、試験的な導入や市民との対話を重ねながら、現実的な可能性を探っていきます。

市長候補さんに一問一答（オーガニック給食無償化を実現する会から公開質問状）敬称略
Q7 2～6の回答を踏まえて、オーガニック給食の導入についてあなたのお考えをお聞かせください。

大坂佳巨

私は東京で生まれ育ったため、20代の時から地方で農業を、それも有機農業をやりたいと思い、それに共感する友人が茨城県で土地を購入し、自力で家を立て、農地を開拓したのを手伝ってきました。当時は近隣の農家さんから白い目で見られる中で活動しました。彼は政治の道をやめて有機農業の道に進みました。私は練馬区で農地を借りて有機野菜を各種栽培しました。30代になってからは千葉県で田んぼの学校を始めて、3反歩ほどの畑を管理して、すべて無農薬で野菜を作ってきましたので、むしろ地方で農薬が当たり前で育った郡山市の農家の方々よりも思いは深いと思います。

勅使河原正之

先進的な取り組みを行っている自治体の状況を調査しながら、郡山市での実現可能性を検討してまいりたい。

椎根健雄

オーガニック給食の理念には共感する部分がありますが、市民の皆様のご意見を十分に伺いながら、最も適した形での導入の可能性を検討する必要があります。慎重に議論を進めていきたいと考えています。

市長候補さんに一問一答（オーガニック給食無償化を実現する会から公開質問状）敬称略
Q8 賛成の場合は具体的に実現までのプロセス、タイムスケジュールを、賛成でない場合はその理由を教えてください。

大坂佳巨

市議会では6月の定例会で、減価する通貨の仕組みについて説明をし、それをおむすび通貨のような仕組みにつなげることを表明します。それに伴い、農業のこれまでの古びた部分についての一掃を図ります。年内に条例を成立させ、今年度末においては、学校給食無償化とオーガニック給食の実施は当然のこととして、それで経済が成り立つような来年度予算を編成いたします。

勅使河原正之

全問の回答のとおりです。

椎根健雄

財源確保の可能性、有機農家の生産能力調査、市民の意見収集。

試験導入：一部学校で実施し、効果検証。

財源の確保と生産能力調査を前提に、市民の皆様の意見を反映しながら拡大を検討。

市の財政状況や市民の皆様の声を踏まえ、総合的に判断していく。

市長候補さんに一問一答（オーガニック給食無償化を実現する会から公開質問状）敬称略
Q9 オーガニック給食を導入した場合、無償化を継続するためには、どんな工夫をすればいいとお考えですか。

大坂佳巨

さきほど述べたような「腐るお金」の仕組みを導入することです。食料生産物は時間が経てば腐敗して食べられなくなるのに対して、お金は貯蔵・増殖ができるのはアンバランスであり、自然界にはありえないことをやっています。したがって、コメが一年後に古米になるように、貨幣も一年後にその価値が減ったり、なくなったりするようにしなければなりません。国政においては日本銀行券のことだから不可能ですが、郡山市において地域通貨を発行すればそれは可能です。

勅使河原正之

無償化をするためには、国に対する財政支援の要望活動を行ってまいりたい。

椎根健雄

ふるさと納税や、行政のスリム化や事業の洗い出しによる財源の確保。
市民の皆様と共に考え、持続可能な制度を目指してまいります。